おおさか
環農水研
RIEAFO

地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）
水産研究部水産支援グループ　担当：山中・辻村
TEL：072-495-5252　FAX:072-495-5600
HP：https://www.knsk-osaka.jp/

2025 年（令和 7 年） 7 月 11 日午後 2 時

関西空港記者会 会員各位 水産経済新聞　みなと新聞　各位
（同時提供　大阪府：府政記者会）

みなさまの食卓に届くことを期待して

トラフグの稚魚を大阪湾に放流します

国や府県が連携した取組で漁獲量の回復をめざします

環農水研水産技術センターでは、大阪湾の魚介類資源を増やすため、魚介類の子供を育てて、放流する「栽培漁業」を大阪府・公益財団法人大阪府漁業振興基金とともに推進しています。このたび、漁業振興基金が育成したトラフグが放流に適した大きさに成長しましたので下記のとおり大阪湾に放流します。また、今回は第 45 回全国豊かな海づくり大会「魚庭（なにわ）の海おおさか大会」記念リレー放流※の一環として行います。

放流日時：2025 年 7 月 16 日（水曜日）　11 時 00 分から
　　2025 年 7 月 17 日（木曜日）　11 時 00 分から
放流場所：海とのふれあい広場（堺区匠町 6 番 1、大和川河口域）
放流尾数：各回とも 1 万 5 千尾程度

放流を待つトラフグの稚魚
全長 70 ミリメートル、体重 8 グラム程度

トラフグ放流イメージ
（ホースを使ってトラフグを放流）

（注）取材を希望される方は、事前に環農水研水産研究部水産支援グループ（担当 山中）までご連絡ください。作業の進行状況や当日の天候により日程を変更する可能性があります。放流準備作業や放流場所などの詳細事項が確定し次第、ご連絡差し上げます。

（放流の経緯、環農水研の役割を裏面に記載しています）

放流の経緯

　トラフグは昭和 40 年頃までは大阪府沿岸でも天然の個体が多く漁獲されていましたが、現在は年間で 100 キログラム程度と少なくなっており、瀬戸内海全域でも減少傾向にあります。そのため、国や瀬戸内海沿岸の府県が連携してトラフグを増やす取組が行われ、その一環として各地で稚魚が放流されています。大阪府でも平成 27 年度からトラフグの稚魚を育成して大阪湾に放流しています。

水産技術センターの役割

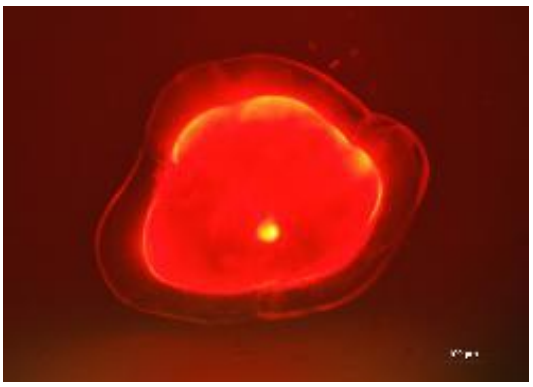
　当センターは放流の技術的サポートを行っており、トラフグの稚魚に大阪府から放流したことが分かるように頭の中にある耳石という硬組織を染色して目印をつけ、関係各県と連携して移動経路や成長を調査しています。初夏に放流したトラフグ稚魚は、翌年の 1 月頃には全長 25 センチメートル、体重 300 グラム程度まで成長して大阪湾で漁獲され始めます。これまでの調査では放流から 1 年半後に全長 40 センチメートル、体重 1,392 グラムに成長した個体も確認されました。また、大阪府から放流した個体が、佐賀県の玄界灘で漁獲されたことも確認されました。

　大阪産（もん）トラフグが府民のみなさまの食卓に届くことを期待し、さらに調査をすすめていきます。

※　2026 年 11 月 15 日（日曜日）に開催する第 45 回全国豊かな海づくり大会「魚庭（なにわ）の海おおさか大会」の機運を醸成するとともに、「つくり育てる漁業」の推進を図るため、府内各地でリレー形式にて稚魚の放流を実施しています。

トラフグの飼育水槽

漁獲された放流トラフグ（2024 年 3 月漁獲）
（全長 40 センチメートル、1,392 グラム、
2022 年 7 月放流由来）



放流するトラフグの耳石につけられた目印